

平成20年度 自己評価及び学校関係者評価

平成21年5月8日  
県立氷上西高等学校

学校教育目標	本年度重点目標
1 教育目標 生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。	① 小規模校の特性を活かした教育内容や指導方法を工夫し、「意欲」「判断力」はもちろん、特に「表現力」の育成を図る。 ② 多様な生徒一人一人の的確な実態把握と生徒理解に努め基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図る。 ③ 本校の教育活動について積極的に広報活動を展開し、地域住民の理解を図るとともに「開かれた学校づくり」を推進する。
2 教育方針 ① 学校・保護者・地域が生徒の育成にかかわる当事者としての自覚と責任に基づいた連携を密にし、地域に根ざした「魅力ある学校づくり」や「地域に信頼される学校づくり」を推進する。 ② 日常生活におけるさまざまな教育活動を通じて、自主・自律の精神と豊かな感性を育み、創造力と豊かな公徳心を培う。 ③ 温かさと厳しさの調和した人間的なふれあいに基づく生活指導を通して、生徒一人一人の生き方に関わる主体的な進路選択能力を培う。 ④ 人と人との絆を強め、公共心と福祉の心を育み、社会の変化に主体的に対応できる能力と生涯学習社会をたくましく生き抜く力を培う。 ⑤ 自国や諸外国の歴史・文化・伝統などについての理解を深め、国際社会と共生社会に生きる人間としての在り方や生き方を思考させる。	
継続的目標	
	① 体験を重んじ郷土理解を推進する「高校生地域貢献事業」「高校生就業体験事業」「総合的な学習の時間」などの教育活動を通して、「心の教育」の充実と「共に生きる心」を育む。 ② 資格取得と部活動を強化し、母校を誇りに思う生徒を育成する。 ③ 新たな防災体制の確立と防災教育の定着を目指して、地域との関係機関との連携を深める。 ④ 「教えるプロ」として自覚を強く持ち、一歩踏み込んだ「信頼関係」に満ちた師弟関係を構築し、「教え、諭し、育てる」ことの実践力向上を図る。

学校評価の実施方法についての学校関係者評価
・学校評価の実施方法については、生徒アンケート、保護者アンケート等に加えて、本校独自の評価項目・実践目標を設定し、その成果を参考した自己評価をおこなっており、適切に実施されている。

総合的な学校関係者評価
・保護者アンケートの回収率が高く、保護者が氷上西高校に入学させて良かったとの回答が80%以上あることは評価できる。 ・小規模校はまだまだやすく地域と連携しやすく、積極的に教育活動を展開していることはよい。全学年1学級となるこの時期をチャンスと捉えることが重要と考え、取り組んでほしい。 ・氷上西高校に対する中学生やその保護者のイメージがよくない部分もあるので、その改善に努めるようにしてほしい。 ・教職員全体で氷上西高生への愛情を持ち、今まで以上に根気強く指導し続けることが必要であることを念頭に置き、教育活動を展開されることを願う。 ・氷上西高校に入学すると様々なこと(資格や検定等)ができる中学生に期待感を持たせるように教育内容を工夫、改善していくことを希望する。

自己評価結果と学校関係者評価						
<評価基準> A・・・よくできた (4) B・・・できた (3) C・・・余りできなかった (2) D・・・できなかった (1)						
領域	評価観点	評価項目	実践目標	取組と成果(上段) 取組と改善策(下段)	評価	学校関係者評価委員の意見
総務部	開かれた学校づくり	高校生地域貢献事業	●「福祉教育講座」、「オープンハイスクール」など地域の人材を有効に活用し地域に根ざした内容となるよう企画・運営する。	・クリーン大作戦、「福祉教育講座」の介護体験の講師など地域と連携した内容で実施することができた。 ・授業と運動させ、高校生が主体となった活動を計画する。	3.3	・「本物ふれあい体験講演」は大変素晴らしく、中高連携という面からも効果が大きかった。
		広報活動	●「西高だより」、「巡回写真展」など昨年度までの事業に加え、「スクールニュース」を発行し幅広く配布することにより広報活動に努める。	・スクールニュースについては掲示用を10ヶ所設置し、広報につながった。保護者への配布方法を再考する必要がある。 ・「巡回写真展」に在校生が関わることができるよう工夫を行う。 ・来年度は教員の数が減少するため、地域の方々との連携をより一層強めるために広報活動を通じて地域住民の方々に学校行事の参加を促進するなど本校への関心をより高めてもらえるよう広報を積極的に展開する。	3.2	・「西高だより」を中学校にも配布したので、氷上西高校の様子がよくわかり、イメージアップにつながっていることは評価できる。 ・「西高だより」を町内外に更に配布していくとよい。

	学校行事への地域住民等の参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>●体育大会、文化祭、オープンハイスクールなどの行事を積極的に開かれたものにし、保護者や地域住民の参加を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭で地域の方の作品展示を実施し、例年になく多くの一般の方々に来校していただいた。</li> <li>・学校行事に地域の方々（幼稚園、保育所、中学校、地域住民等）に来てもらえるよう出演依頼等を行う。</li> </ul>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭で地域住民の作品の参加があり、好評であった。更に保護者をはじめとする様々な方の作品展等が実施されるとより開かれた学校づくりにつながると思われる。</li> </ul>	
	行事内容の充実	式典行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着任式、入学式、離任式、始業式、終業式、卒業式等の式典を企画、厳粛に運営し、生徒の校歌斉唱への積極的な取り組みを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌の斉唱はまだまだであるが、式のたびに促しの言葉を入れてから始まるようにした。</li> <li>・校歌指導は、音楽の授業と連携を図る。また、合唱コンクールで課題曲として校歌を指定する等の工夫がいる。</li> </ul>	2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌指導は難しいが、母校愛を考えさせたりする活動の中で指導していくことも必要かも知れない。</li> </ul>
教務部	基礎・基本の定着	生徒の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の学習状況調査による生徒の実態把握を行い、学習指導の主資料とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生入学時に学習実態調査を実施した。また、2学期に全学年・全科目の学習状況について授業アンケートを行い、集約して学習指導の資料とした。</li> <li>・学習指導の充実を図るようにより工夫した授業を展開する。</li> </ul>	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習状況調査を活用し、学習指導の充実や改善につなげてほしい。</li> <li>・家庭学習に生徒が力を注ぐことができていないので、授業等を工夫し、取り組むことを特に希望する。</li> </ul>
		習熟度別授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●習熟度別授業を最大限に取り入れ、個々の能力に応じた学習により基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年に渡り座学を主とするほとんどの科目で習熟度別授業を行い、基礎・基本の定着を図った。</li> <li>・来年度もできる限り習熟度別授業を維持し、基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別授業に対する評価が高いので、更に生徒の力を向上させるように取り組んでほしい。</li> </ul>
	授業改善による生徒の学習意欲高揚	評価規準の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>●指導と評価の一体化に向け、各科目のシラバスにおける評価基準に基づいた評価規準を検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの評価基準に基づく評価規準の検討を各教科に求めた。</li> <li>・評価規準を適確に作成する。</li> </ul>	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に意見はなかった。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報機器を活用したICTなど、より効果的な指導に向けた研修や研究会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回の職員研修会を実施し、ICTを利用した指導方法について具体的に研究した。</li> <li>・すぐにICT機器を活用した授業ができるようにプロジェクター等を設置した教室を整備する。</li> </ul>	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修会等を開催し、教員の指導力向上を図ることをより実施してほしい。</li> <li>・生徒による授業評価の実施は生徒にとっても教員にとっても自覚向上につながり、効果が期待できるので活用してください。</li> </ul>
		指導方法の工夫と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間3回の授業公開週間を実施し、指導方法の改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期に1回ずつ実施した。市内中学校からも参観があった。授業のビデオ撮影をし、指導方法改善の研究材料とした。</li> <li>・授業への取組に問題がある生徒への生徒指導上の対応と指導方法の改善に授業公開週間は有効に活用できるので、授業公開週間の回数を各学期の前半と後半に設けるなど回数を増やす。</li> </ul>	3.0	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒による授業評価を実施し、学習指導の主資料とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期に全学年、全科目について授業評価を実施し、集約して学習指導の資料とした。</li> <li>・授業評価を各教員が今まで以上に活用する。</li> </ul>	2.9	

	個に応じた学習指導の徹底	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個の学力に応じ、放課後および休業中の補習を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望者には進学補習・集中講座を実施し、検定受検者には補習を実施した。また、成績不振者には休業中に指名補習を実施し、学力の充実を図った。</li> <li>・基礎、基本の定着を計るため、小テストの実施頻度を増加し、学習態度を修得させ学習意欲を高める。</li> </ul>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習を更に充実したものにしてほしい。</li> </ul>	
	自ら学び自ら考える力の育成	総合的な学習の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多面的な考え方を身に付けさせるとともに問題解決や探究活動に主体的・積極的に取り組む態度を育てるために、3年間の学習目標を進路実現におく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験的学習、講話、資料に基づいた学習により多面的な考え方の育成を図り、進路実現に向けて積極的に取り組む姿勢を育てる。</li> <li>・系統立てた外部講師の活用計画を立て、総合的な学習の時間における外部講師の固定化を進める。</li> </ul>	2.9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間では、色々な体験的な学習をしていることは素晴らしい。来年度もできる範囲で実施してください。</li> <li>・地域の方が来校し、授業を行う回数を増やすこともよいのではないかと。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域や自然との関わりを体験的に学習し、地域を尊重する心を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習に地域の特色を活かしたパラグライダー体験、丹波布伝承館実習、インターシップ等を実施した。</li> <li>・特色ある学習内容であり、維持・発展していく。</li> </ul>	3.5		
生徒指導部	生活習慣の確立	問題行動の克服	<ul style="list-style-type: none"> <li>●問題行動の未然防止の指導を徹底する。校内、校外の巡回指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会で注意や警告をした。校内は毎日校外は随時巡回した。</li> <li>・授業間の巡回や昼休みの巡回等こまめな巡回は、生徒指導にとっても有効であり、継続して行う。</li> </ul>	2.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が一丸となり、生徒指導に当たる必要があり、教員が同一方向で全員が声をかけあって取り組む指導体制を創り上げることが大切である。特に願う。</li> </ul>	
		校則の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校生活の基本である頭髪や服装の指導を徹底する。再登校指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会で点検を行い、違反者には注意・警告後、再登校指導を実施した。</li> <li>・頭髪指導等生徒指導上の問題について、もっと生徒指導主体で全職員が同じ意識をもって生徒指導できる体制を整える。</li> <li>・服装や頭髪の指導は、職員全員で校門に立って指導する。</li> </ul>	1.8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の自己評価が低く、これが現実かも知れないが、氷上西高校のイメージダウンにならないように取り組んでほしい。</li> <li>・校門指導は今後も続けてほしい。</li> </ul>
	交通安全指導の徹底	校則の遵守	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育相談の充実により悩みを持つ生徒の早期発見と指導援助体制を確立する。</li> <li>●発達障害のある生徒への理解のために職員研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みを持つ生徒・保護者が教育相談を受け、生徒等への援助ができた。</li> <li>・8月にキャンパスカウンセラーによる職員研修を行った。</li> <li>・定期的にカウンセラーと職員で生徒の情報交換、又は、アドバイスを受ける時間を作る。</li> </ul>	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に意見はなかった。</li> </ul>
			交通安全指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>●遅刻防止のため毎日生徒通用門で登校指導を実施し、また定期的に全教職員参加の登校指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師2名が毎日通用門で登校指導を行い、遅刻防止に努めた。</li> <li>・生徒通用門以外を出入りする生徒について対策を立てる。</li> </ul>	2.5	

	特別活動の充実	学校の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校行事に積極的に参加し、連帯意識を高める。</li> <li>●部活動・H R活動・生徒会各種委員会の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に体育大会や文化祭を盛り上げ、連帯意識が高まった。</li> <li>・野球部の応援に太鼓部が援助し活性化を図ることができた。</li> <li>・部活動において、小規模校独自の運営方法を工夫し活性化につなげる。</li> </ul>	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓部等は氷上西高校をPRや鼓舞することに役立っている。更に飛躍するように取り組んでほしい。</li> <li>・部活動の全員入部を勧め、心技体の充実を図るようにお願いします。</li> </ul>
進路指導部			<ul style="list-style-type: none"> <li>●3年間を見据えた進路指導計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見据えた進路指導計画を作成した。</li> <li>・早期に1年生からの個別な指導を進める。</li> </ul>	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択能力を育成することに更に力を注ぐ工夫をしてください。</li> </ul>
		進路情報の整備・伝達	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者への進路情報・説明会の実施</li> <li>・情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に全学年に実施し、特に3年生は就職・進学別の説明会を実施し、進路環境の理解を求めた。</li> <li>・進路閲覧コーナーに参考書や最新情報を整備した。</li> <li>・教室にもっと進路情報誌を置く。</li> </ul>	3.1	
		進路指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個に応じた進路情報の提供</li> <li>・進路閲覧コーナーの整備</li> <li>・個別・分野別情報</li> <li>・資料の提供</li> <li>・面接指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査を基に分野毎、学校毎の資料を個別に提供した。</li> <li>・3年生には4月から本格的な面接指導を実施した。</li> <li>・進路指導の資料、書籍、本校の進路データ等が不十分であり整理されていないので、役立つ資料の収集や保管、整理を行う。</li> </ul>	2.9	
		学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●進路実現に向けた学習習慣の確立と実力錬成</li> <li>・進学補習の年間計画と実施</li> <li>・模擬試験の年間計画と実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学補習を計画通り実施した。</li> <li>・模擬試験と検定を年度当初に一括して計画、申請し、実施した。</li> <li>・生徒一人一人の進路実現のため、日々の挨拶、小テスト、授業態度等あたりまえのことを徹底して、きちんとさせる。</li> </ul>	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に意見はなかった。</li> </ul>
		就業体験事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業生との進路座談会</li> <li>●2年生インターンシップの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生に就業現場の談話や地域の有識者から講演を実施した。</li> <li>・効果ある講演であり、継続し展開する。</li> <li>・2年生全員がインターンシップに取り組み、熱心に活動した。</li> <li>・勤労観等の育成に適した体験であり、来年度も実施する。</li> </ul>	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の教員だけにとどまらず、外部講師の力を活用し、社会の厳しさ、ルールを遵守すること、対人関係等を教えることは評価できるので、今後も続けてください。</li> <li>・高校生の離職率を減少させる意識を育ててください。</li> </ul>
	主体的な進路選択能力	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己の能力・適性・興味・関心に基づき自己の生き方を考え、自分の意志と責任で進路決定ができる能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年毎に学習内容を系統的に学ぶことができた。生徒自ら進路決定ができる能力を育成できたが更に向上させる必要がある。</li> <li>・来年度は就職希望者にとって厳しい状況が予想されるので、地域関連機関との連携をより強化し、生徒の進路実現に向けた取り組みに努める。</li> </ul>	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に意見はなかった。</li> </ul>

保健環境部	保健衛生	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員を対象にしたAEDを使用した心肺蘇生法講習会を実施し、危機管理に対応できる体制を確立する。</li> <li>●生徒を対象にした安全教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員にAEDを使用した心肺蘇生法講習会を消防本部の協力で実施し機器操作の習熟を図った。</li> <li>・生徒を対象に、防災教育の中で安全教育を行った。</li> <li>・毎年、確実にAEDの講習を実施する。</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確実に実施されており、継続して安全教育を推進してほしい。</li> <li>・保健便りの発行が毎月されていることはよい。ただ、家庭に届いているかを確認する必要があると思う。</li> <li>・エコ石けん、水等の私たちの身の回りの環境を大切にすることを育成してほしい。</li> <li>・ゴミの分別は家庭でも難しい。学校でも少しでも分別できるように様々な機会を活用して意識を高めてほしい。</li> <li>・障害を持った当事者から直接話を聞く機会を持ち、人権意識を高めてほしい。</li> <li>・特に意見がなかった。</li> <li>・生徒の実態を把握する調査や面談などを定期的実施し、この活用にも努めてほしい。</li> </ul>
		健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保健だよりを定期的、かつ随時発行し、生徒が主体的に健康管理する意識を高める。</li> <li>●健康管理のため、諸検診を実施する。</li> <li>●家庭との連携を密にして、必要な生徒に治療を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほけんだより」を保健室よりほぼ毎月発行し、健康管理に対する啓蒙に努めた。</li> <li>・保健だよりの作成に生徒を参加させる。</li> <li>・予定通り諸検診を実施でき、保護者への連絡をその都度行い、治療の必要な生徒に勧告した。</li> <li>・諸検診の日程を学校行事と調整し、簡略化した計画を立てる。</li> </ul>	3.2	
		環境整備	環境美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゴミの分別意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別意識がとても低い場合、意識を高める必要がある。</li> <li>・ゴミを出す日を限定する、ゴミ箱の区分(プラゴミと燃えるゴミのゴミ箱自体の色・形を変更)等の改善が必要である。</li> <li>・ゴミの散乱はゴミ箱の問題ではなく、生徒意識の改善が必要である。</li> </ul>	
人権教育委員会	人権意識の高揚	人権HR	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各学年に応じた人権ホームルームを計画的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に応じた人権ホームルームといじめアンケートによるホームルームを実施した。</li> <li>・系統立てた人権教育の基本方針、資料、教材、指導案等を整理、保管する。</li> </ul>	2.5	
		職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員研修会を実施し、職員の人権意識の高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に高源寺の住職による教職員研修会を行い職員の人権意識の高揚に努めた。</li> <li>・本校生が安心して学校で学び、学ぶことが楽しいと思える環境作りをするよう取り組む教員の意識を常に高める。</li> </ul>	2.8	
		生徒の実態把握に基づく確かな指導	実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の意識を把握し、個々の差別実態を解消させる態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権作文やいじめアンケートにより生徒の実態把握に努めた。</li> <li>・いじめアンケートは、いじめの有無に関わらず定期的実施し、実態把握に努める。</li> </ul>	2.9